

SUBI を用いた理工学部大学教員の 心理的健康感の評価

藤井 香* 広瀬 寛* 大野 裕** 齊藤 郁夫*

精神保健の分野において、学生に対する調査は数多く報告されているが、学生を支えている教員のメンタルヘルスについては全国的にも報告が少ない。しかし、近年青少年犯罪や学級崩壊などが社会問題にもなっており、教員のストレスに対するケアも必要とされている。1997年の杉澤らの調査¹⁾では、東京都23区内の小中学校教員の精神的健康水準が、一般集団よりも低い結果であった。また、Pithersら^{2), 3)}が行ったストレスと心身の緊張感の調査では、教員職はさまざまな職業と比較しても、業務量の負荷やその責任による精神的負担から、高い

ストレスレベルにあったと報告している。本大学では、博士課程を卒業したばかりの若い助手も授業を持ち、組織としての事務的業務を行うことから、人間関係のトラブルもあり、精神保健相談にみえる教員も少なくない。学内で実施している精神科医師による診療件数は毎年増加しており、学生と同様に教職員の利用も増加している(図1)。そこで今回、WHOのSubjective Well-Being Inventory (SUBI)^{4), 5), 6)}を用いて、理工学部大学教員の心理的健康感を大学生(以下、学生)および事務系職員と比較したので報告する。

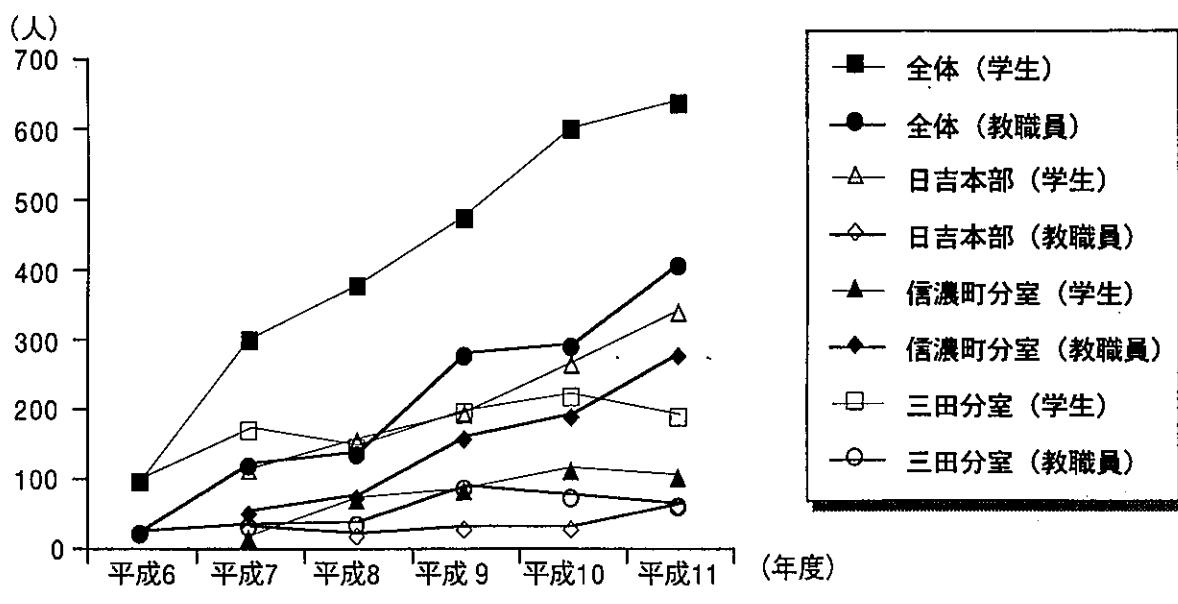


図1 大学での精神保健相談・診療の受診者数

* 慶應義塾大学保健管理センター

** 慶應義塾大学医学部精神神経科

対象と方法

理工学部男性大学教員 24 名 (38.2 ± 8.9 歳, 平均 \pm 標準偏差), 比較対照群として事務系男性職員 12 名 (40.2 ± 12.7 歳) および男子学生 271 名 (23.0 ± 1.6 歳) の三群 307 名に, 自己記入式質問紙による調査を行った。質問紙は, 全教員 250 名に対して配布したが, 任意提出とし, 結果はアドバイスを添付して個人宛に返却した。回収率は 9.4 % であった。

SUBI は, 心理的健康感に対する個々の質問に対して, 「非常にそう思う」, 「ある程度そう思う」, 「あまりそう思わない」などの形で選択肢が用意されており, それに基づいて基本的に三段階評価を行うようになっている。結果は, 陽性感情と陰性感情の両面と, 10 のドメインにおいて評価した。

統計学的処理には, 統計ソフト Stat view 5.0, MP Multi を使用した。SUBI ポイントの各群間の差については Kruskal-Wallis test, post hoc test の評価には Bonferroni

法を採用した。なお, $P < 0.05$ を統計学的に有意とした。

成績

1. 陽性感情の強さと陰性感情の弱さ (図 2)

学生や職員に比較して, 教員は「陽性感情の強さ」が有意に低いポイントであった。また, 学生に比較すると, 教員は「陰性感情の弱さ」が有意に高いポイントであった。

2. 陽性感情各ドメインのポイント (図 3)

「達成感」のドメインにおいて, 職員に比較して教員は有意に低いポイントであった。「近親者の支え」のドメインにおいて, 学生および職員に比較して教員のポイントが有意に低かった。

3. 陰性感情各ドメインのポイント (図 4)

「身体的不健康感がない」というドメインにおいて, 職員に比較して教員のポイントが有意に高かった。「社会的なつながりの不足がない」というドメインにおいて, 学生に比較して教員

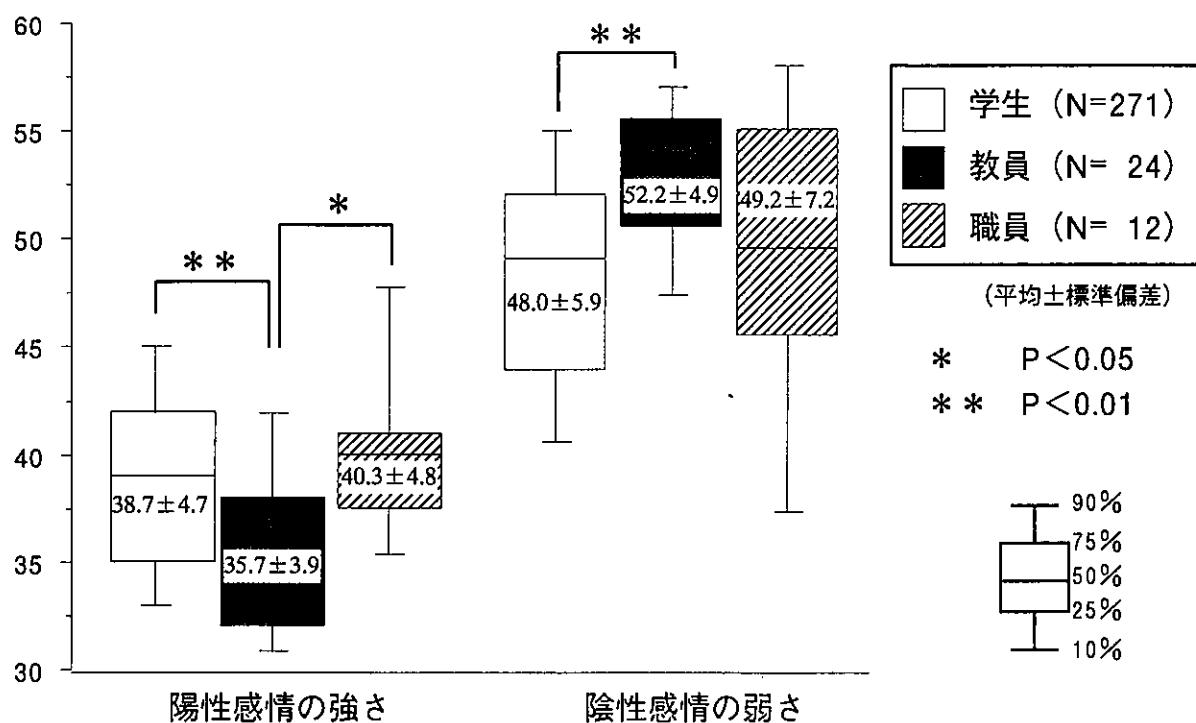


図 2 陽性感情の強さと陰性感情の弱さ

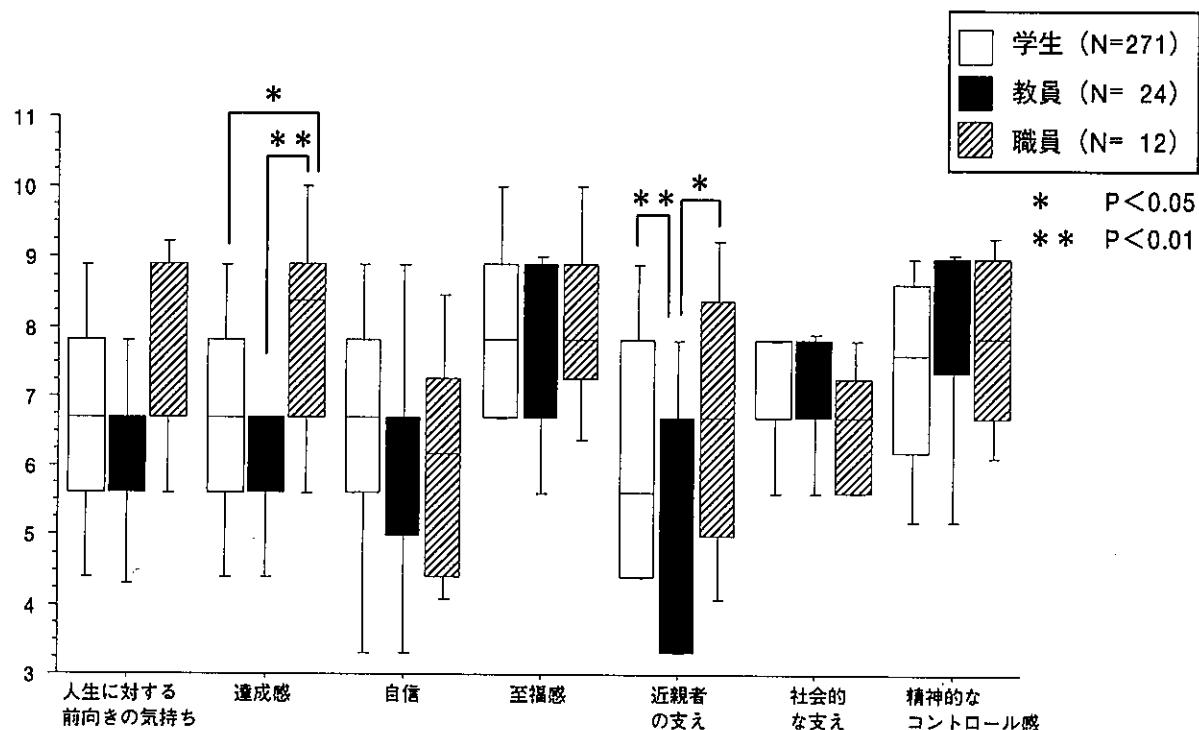


図3 陽性感情各ドメインのポイント

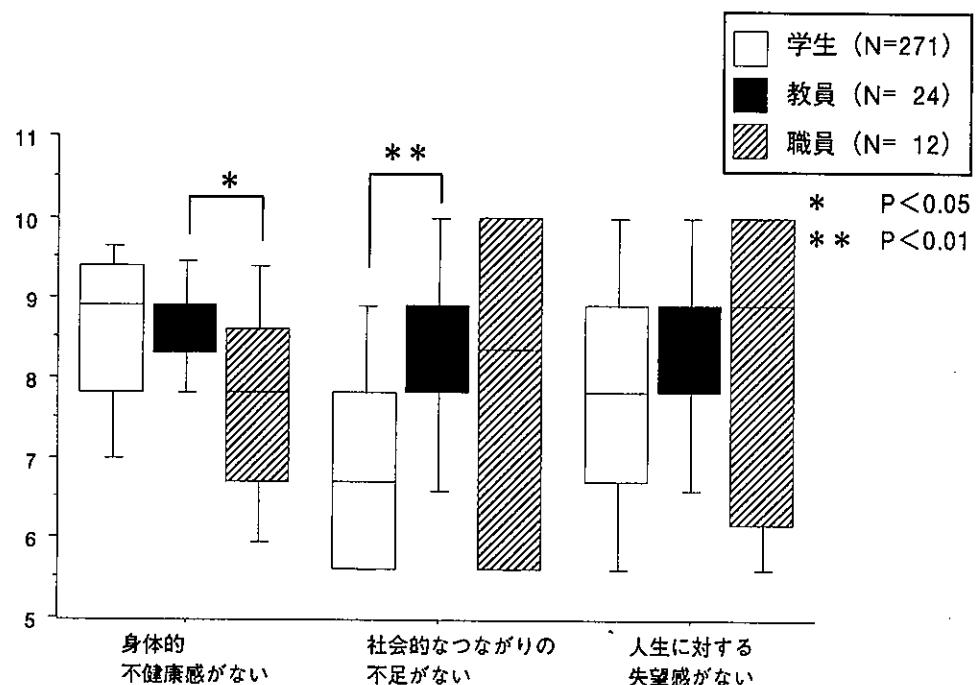


図4 陰性感情各ドメインのポイント

のポイントが有意に高かった。

考 察

陽性感情は人生の生きがいや前向きな気持ちを示し、陰性感情は心身の不健康感を示す。教

員は主に授業や学生の研究指導にあたる職務であるが、生きがいや達成感などを表す陽性感情が低いという結果であった。

ドメイン別にみると、「近親者の支え」についてのポイントが低く、他群と差がみられた。

しかし、陰性感情、つまり鬱などの精神症状には現れにくいという特徴がみられた。1991年のHatta らの報告⁷⁾によれば、教員は一般職に比較して、将来に対する不安や精神的疲労感などに差はないが、主観的なストレスが強く、ドメインとして考えると今回の調査結果とほぼ同様の傾向を示した。

職業としての教員職は、競争意識が強い企業に比較すると転勤が少なく、業務も年単位で民間の一般職に比較して安定している。しかし、Belcastro らの公立教員を対象とした調査⁸⁾では、保守的な業務が教員の燃え尽き症候群に関係し、それが学校全体に影響を及ぼすことを示唆している。業務以外での余暇の過ごし方やストレス解消法などを、保健指導で一考していくことが大切であると思われる。

また、学生と比較すると、自分の研究よりも大学の運営や他部署との関連業務に時間を費かなければならぬ場合が多い。Boyle らの教員のストレス構造の調査⁹⁾では、教員のストレスは、業務負担や生徒との関りあいが多く関係していることを示唆している。

本来、個人の研究を大学や社会のために貢献したり、教育職として学生を育成するべく教員職に就くのであるが、それ以外の業務に多忙であり、個室にいる時間が長く孤立しやすい。こうした生活が、陽性感情と陰性感情の差を狭めてしまう誘因になると推測される。

精神科分野においては、抑鬱や不安などの精神症状を中心とした陰性感情に注目して治療を行っているケースが多い。それは、こうした陰性感情が、患者の生活行動や認知に影響を及ぼし、社会生活に不適応を生じさせることから、表出しやすい問題として捉えられるからである。しかし、近年の治療や予防的対応においては、疾病レベルだけでなく、一人の人間としての満足度や充実感、つまり陽性感情に障害がおきて

いないかに注目して措置をとることも必要であるといわれている⁴⁾。

教員の今回の対象である理工学部大学教員に対しては、その陽性感情が低い結果であり、今後のメンタルヘルスケアのアプローチ方法を検討する必要があることが示唆された。また、教員職のストレスには、年齢差や業務配置、学校の特色によりさまざまな違いがあるという報告もあるので¹⁰⁾、今後、年齢・男女別、また文系学部の大学教員との差、一般事務職との差などを調査して、この傾向が理工学部大学男性教員に特有のものなのかを検討していきたい。

総 括

- WHO の Subjective Well-Being Inventory (SUBI) を用いて、理工学部大学男性教員24名の心理的健康感を大学生および事務系職員と比較した。
- 学生と職員に比較して、教員は「陽性感情の強さ」が有意に低く、また「陰性感情の弱さ」が有意に高い結果であった。
- 陽性感情でみると、「達成感」、「近親者の支え」のドメインにおいてポイントが低く、陰性感情でみると、「身体的不健康感がない」、「社会的なつながりの不足がない」というドメインにおいて、教員のポイントが高かった。

文 献

- 1) 杉澤あつ子、他：都市部の公立小中学校に勤務する教員の心身の健康状態。産衛誌、39: 275, 1997
- 2) Pithers RT, Fogarty GJ: Symposium on teacher stress. Occupational stress among vocational teachers. Br J Educ psychol 65: 3-14, 1995
- 3) Pithers RT: Teacher stress research; problem and progress. Br J Educ psychol 65: 387-392, 1995
- 4) 大野裕、他：心理的健康感と心理的不健康感の

- 関係について—患者群と非患者群の比較—。ストレス科学, 10: 273-278, 1995
- 5) 藤井香, 他: SUBI をもちいた理工学部大学生の心理的健康感の評価. 学校保健研究, 39: 416-417, 1997
- 6) 藤井香, 他: NEO-FFI によるパーソナリティ分析と心理的健康感の関係. Health Sciences, 14: 174-175, 1998
- 7) Hatta T, Nishiide S: Teacher's stress in Japanese primary schools: comparison with workers in private companies. Stress Medicine 7: 207-211, 1991
- 8) Belcastro PA, Gold RS: Teacher stress and burnout; implications for school health personnel. Sch Health 53: 404-407, 1983
- 9) Boyle GJ, Borg MGs: A structural model of the dimensions of teacher stress. Br J Educ psychol 65: 49-67, 1995
- 10) Borg MG, Riding RJ: Teacher stress and cognitive style. Br J Educ psychol 63: 271-286, 1993